健全で豊かな森林づくりプロジェクト フォローアップ委員会 自己評価シート

プラン名	樺森林づくりプロジェクト			作成日	20年	11月	19日
実施方法	☐ 単独	☒ JV	所属	岐阜中央森林組合	記入者	大西一暢	
プロジェクトの対象・目的・内容	対象（誰を、何を）	目的（どういう状態にしたいのか）					
	・岐阜中央森林組合 ・極東森林開発㈱	・路網整備と高性能林業機械を組み合わせた低コストの択伐施業を繰り返す、長伐期・非皆伐による持続可能な林業経営の確立。					
	・山県市樺・笹賀地内の約530haの森林整備及び木材生産						
事業内容（どのような方法で、何を行うのか）	・将来の森林づくりを見据えたランドデザインを、岐阜中央森林組合と極東森林開発㈱との協働で描く。 ・岐阜中央森林組合は、ランドデザインに基づく森林施業プランを作成し、森林所有者のとりまとめを行う。 ・極東森林開発㈱は、集約化された施業地において、作業道開設と高性能林業機械による効率的な素材生産を行い、森林所有者への利益還元を図る。						
事業期間	平成 19年度 ～ 平成 23年度（ 5 年間）						
事業費 / 年度	モデル団地への国・県・市町村補助金投入額（平成19年度決算） ※職員人件費を除く						
		森林整備関係	搬出補助関係	機械導入関係	治山関係	保安林整備関係	その他
予算執行額（千円）	45,132.0	6,000.0	30,449.0				
財源内訳	国・県費	42,100.0	3,000.0	14,499.0			
	市町村費	1,332.0	3,000.0				
	一般財源	1,700.0		15,950.0			
	その他						
事業実績	成果指標	単位	19年度		20年度		
			計画	実績	計画	進捗	
	① 施業集約化	ha	150.0	340.0	90.0	11.0	
	② 植栽	ha	5.0	6.5	10.0	0.0	
	③ 下刈・除伐	ha	15.0	15.0	20.0	0.8	
	④ 切捨間伐	ha	25.0	25.0	25.0	1.0	
	⑤ 利用間伐	ha	35.0	12.0	50.0	13.0	
	⑥ 主伐	ha	—	—	—	0.0	
	⑦ 作業道開設（延長） w= 3.0 / 3.6 m	m	2,000 / 3,000	305 / 6,015	2,500 / 3,500	326 / 4,643	
	⑧ 作業道開設（開設コスト） w= 3.0 / 3.6 m	円/m	2,700 / 8,000	3,727 / 5,370	2,400 / 7,500	3,727 / 5,120	
	⑨ 木材生産量（モデル団地内）	m ³	2,000.0	3,000.0	3,000.0	1,900.0	
	⑩ 木材生産量（モデル団地外）	m ³	—	—	—	—	
	⑪ 木材生産性	m ³ /人日	4.3	4.5	4.7	4.5	
	⑫ 木材生産コスト（伐採～積込まで）	円/m ³	10,500.0	11,500.0	9,500.0	（協議中）	
	⑬ 高性能林業機械導入	台	3	3	—	1	
	⑭ 伐採専門チーム養成	チーム	1	1	1	1	
	⑮ 森林施業プランナーの育成	人	1	1	—	—	
	⑯ 市民へのPR（組合広報誌への掲載）	回	1	1	1	1	
	⑰ //（組合総会資料への掲載）	回	1	1	1	1	
	⑱ //（山県市有線テレビによるPR）	回	—	—	—	3	
	⑲ 樺森プロ見学ツアー等の開催	回	—	—	1	2	
	⑳ 森プロスタッフの技術向上研修の実施	回	—	1	—	2	
	(21) 作業道管理に関する所有者への説明	人	—	18	—	32	
	(22) 未整備森林の整備	ha	—	25.0	—	1.0	
	(23) 森プロ1期生として森林づくりの指導・啓発	回	—	—	—	30	
(24) 雑誌等による森プロの広報活動の実施	回	—	8	—	10		
(25)							
補足説明	<樺森プロ見学ツアー等の開催> ・地元山県市の森林所有者（財産区役員）に対して、森林整備の必要性や木材生産の実施に関する現地説明会を行った。 ・平成20年11月22日（土）に一般県民を対象とした「樺森林づくりプロジェクト見学ツアー」を開催。森林整備を行う意義等について普及・啓発を行った。						

【 自己評価 】					
配点		3点	2点	1点	
1 達成度	プロジェクトは当初計画どおり実施されているか	☐ 実施されている	☒ 一部未実施	☐ 実施されなかった	
	当初設定した目標（生産コスト等）は達成したか	☐ 達成した	☒ 一部達成した	☐ 達成しなかった	
	進捗管理（定点観測等）は実施されているか	☒ 実施されている	☐ 一部未実施	☐ 実施されなかった	
	補足説明	<ul style="list-style-type: none"> ・突出した30年耐用の作業道開設に関して、現場での創意工夫やスタッフの技術力の向上により、計画を大幅に上回る実績を達成した。 ・木材生産に関して、現地での素材生産ラインの再構築により、計画を大幅に上回る実績を達成した。 			
【 委員評価 】					
コメント	・別添フォローアップシート参照				
2 成果	【 自己評価 】				
	配点		3点	2点	1点
	木材生産の拡大が図られているか	☒ 図られている	☐ 一部図られている	☐ 図られていない	
	森林環境（動植物等）の改善を確認できるか	☒ 大いに確認できる	☐ 一部確認できる	☐ 確認できない	
山地災害発生を抑止する工夫ができたか	☒ 工夫できた	☐ 一部工夫できた	☐ 工夫できなかった		
補足説明	<ul style="list-style-type: none"> ・作業道の開設方針として、①絶対的な安定路盤の整備、②細心にして大胆な集排水対策、③可能な限りのメンテナンスフリーの3つを基本方針として、長期的に使用可能な「壊れにくい」作業道の開設技術を確立。 ・作業道（路肩）の強度を向上させ崩壊を防止するため、椿森プロオリジナルの丸太組工法を開発、施工。 				
【 委員評価 】					
コメント	・別添フォローアップシート参照				
3 効率性	【 自己評価 】				
	配点		3点	2点	1点
	コストや業務量に見合った成果が得られたか	☒ 得られた	☐ 一部得られた	☐ 得られていない	
	効率的な実施体制で推進されているか	☒ 推進された	☐ 概ね推進できた	☐ 推進できていない	
積極的に民間活力を活用しているか	☒ 活用できた	☐ 一部活用できた	☐ 活用できなかった		
補足説明	<p><作業道開設></p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業道開設に関して、伐開作業と掘削作業のチームが連携し、必要最小限の伐開により作業道を開設。 ・支障木の引き出し・搬出に、オリジナルのトンガを開発。作業能率が5倍に向上。 <p><木材生産></p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業道チームと木材生産チームの密接な連携により、効率的な木材生産を実施。 ・原木にさわる回数を極力減らしてコストダウンを図るため、長材による効率的な搬出作業を実施。 				
【 委員評価 】					
コメント	・別添フォローアップシート参照				
4 妥当性	【 自己評価 】				
	配点		3点	2点	1点
	地域住民（森林所有者）のニーズを反映しているか	☒ 反映している	☐ 一部反映している	☐ 反映していない	
	プロジェクトの計画内容（箇所・時期等）は適当であったか	☐ 適当であった	☒ 一部適当でなかった	☐ 適当でなかった	
期待する人材は養成されたか（伐採専門チーム等）	☐ 養成された	☒ 一部養成された	☐ 養成されていない		
補足説明	<ul style="list-style-type: none"> ・販売する木材は所有者別に色分けして、所有者毎の売上金額を明確化。 ・森プロスタッフの技術向上を図るため、岐阜中央森林組合の森林技術者2名を、極東森林開発㈱が研修生として受け入れ、大径木の伐採など林産作業のできる森林技術者を養成。 ・森林施業プラン（施業提案書）が作成できておらず、所有者に明確な説明ができていない。 				
【 委員評価 】					
コメント	・別添フォローアップシート参照				

【 自己評価 】			
配点	3点	2点	1点
関係者(住民・所有者・従事者)の満足度は向上したか	☒ 向上した	☐ 一部向上した	☐ 向上しなかった
選定委員会、研修等における指摘事項は十分対応できたか	☐ 対応できた	☐ 一部対応できた	☒ 対応できなかった
上記以外にも成果向上のための改善余地はあるか	☒ 余地がある	☐ 一部余地がある	☐ 余地がない
5 発展性	補足説明 ・地元森林所有者や一般県民に対して、樫森林づくりプロジェクトの現地見学会を開催。 ・作業道開設により森林所有者の自己山林への意識の高揚を図った。 <今後の課題> ・岐阜中央森林組合が新たに中間土場を設置し合板工場等への直送販売を行うため、森プロと中間土場との連携を密にしA材からC材まであますことなく有利な販売を行う。 その他、課題は山ほどある。		
	【 委員評価 】		
コメント	・別添フォローアップシート参照		

自己評価(集計)				
評価集計	1 達成度	2 成果	3 効率性	
	7	9	9	
	4 妥当性	5 発展性	合計点	
	7	7	39	
	総合評価	A		
総合評価：A=現状維持 B=充実・拡大 C=要改善 (配点区分：A=45~36点 B=35~26点 C=25~15点)				
補足コメント				

フォローアップ委員会による総評			
推奨方針(案)	☒ 現状維持	☐ 充実・拡大	☐ 要改善
コメント	・別添フォローアップシート参照		